大竹駅伝競走大会

終了

問い合わせ
生涯学習課
☎53-6677

令和５年１月８日に開催が予定されていた第70回大竹駅伝競走大会は、選手および競技関係者の安全確保の見通しが立たず、開催中止となりました。

その後、今後の大竹駅伝競走大会の開催について、競技役員として関わっていただいていた関係団体の皆さんなどと協議を重ねて来ましたが、走路となる一般道路の交通規制などの難しさから、従来の形で開催することは今後も難しいと判断し、大竹駅伝競走大会を終了することとなりました。

これまで駅伝の開催にご尽力・ご協力くださった皆さんや、選手として駅伝に参加し、開催を楽しみにしてくださっていた皆さんには厚くお礼を申し上げます。

今後、市の伝統行事である大竹駅伝競走大会の歴史の重みや意義を次世代に伝え、継承していくために、記念行事などの開催を検討していきます。

大竹駅伝競走大会の代わりになるものはありませんが、新たに開催する「瀬戸内リレーマラソンin大竹」が、市民の皆さんに愛着を持ってもらえるようなイベントになるよう努力していきます。
皆さんのご理解とご協力をよろしくお願いします。

同日開催 瀬戸内リレーマラソンin大竹 ランランふれあいマラソン

1月7日㈰ 9時～15時（予定）

ところ
晴海臨海公園

問い合わせ
実行委員会事務局（生涯学習課内）
☎53-6677

参加の申し込みやイベントの詳細はこちらから

市で初めてのリレーマラソン大会です。晴海臨海公園を舞台に「走ること」を通じて、多世代で楽しみながら交流しましょう。ランランふれあいマラソンも同日開催します。
「笑顔・元気♡かがやく大竹」を実現していくため、スポーツを核としたにぎわいを生み、市の魅力を広く発信できるイベントにしていきます。

リレーマラソンとは

複数人でチームを組み、周回コースをタスキをつないで走る競技です。走る順番や回数、連続して走る周数をチームで自由に決められるため、走るレベルの違う人たちとチームを組みやすいのが魅力です。

対　象

リレーマラソン
小学生以上

ランランふれあいマラソン
未就学児と保護者ペア、小学生、中学生

主　催　「瀬戸内リレーマラソンin大竹」実行委員会

コース　公園内特設コース

種　目

リレーマラソン（約42・195㎞）
１チーム５～15人で、制限時間４時間
①一般の部
②職場の部（同列会社および関係取引先でチームを組めます）
③学校の部（同じ学校の現役・OBでチームを組めます）
※各部門で仮装エントリーありの予定です。

ランランふれあいマラソン
①ファミリーペアの部（約500m）
※未就学児と保護者
②１周の部（約1・2㎞）
小学１～２年生男・女、小学３～４年生男・女、小学５～６年生男・女
③２周の部（約2・4㎞）
中学生男・女

参加料（傷害保険料含む）

リレーマラソン
一般１人3000円、高校生以下１人1500円
※完走賞（制限時間内に走破した場合）、参加賞、順位などの表彰や副賞があります。

ランランふれあいマラソン
１人1000円
※記録証、参加賞、順位などの表彰や副賞があります。

申し込み
専用ホームページに掲載している申し込みフォームから

その他
飲食ブースや特産品販売ブースなどが並ぶ予定です。
※他にも体験コーナーが設置される可能性があります。

1あつあつのはしまきをパクリ 2屋台も大人気 3 4 5 6村竹親子の記念写真 7捕まえられるかな 8浴衣姿をパシャリ 9まつりの定番「チョコバナナ」

8/28 MON

やっと帰ってきた

小瀬川沿い

夏の風物詩、『大竹・和木　川まつり花火大会』の開催で活気づく屋台は、カップル、友達、家族などさまざまな人であふれかえります。定番のかき氷やたこ焼きなどを食べ歩き、ゲームをしたり、写真を撮ったり、花火の観覧をしたりして夏の最後を飾る一夜を過ごしました。花火の打ち上げまであと少し、小瀬川沿いに集まる観客は空を見上げます。「ドンッ」という音とともに赤や緑などのまばゆい光が夜空を彩るショーの始まりです。

「去年はポテトとかき氷くらいで寂しかった」と話す和木町からきた大学生の今井七彩さん、中川菜都さんは「やっとにぎわいが帰ってきたなって感じがする」とうれしそうに屋台を眺めます。この花火を見ようと広島市安佐北区から来た村竹夫妻と息子の奏空くん（２歳）は、大竹が地元という妻とその母と一緒に花火を堪能。「いつもの年より今年はすごかったから来てよかった。（奏空は）最初は怖くて泣いていたけど、途中からすっごく見てた」とほほ笑む村竹夫妻です。

カメラスケッチ

９月９日　玖波公民館の『神楽フェス』に、大竹の伝統的な神楽を学ぼうと訪れた220人。『松ケ原神楽団』『谷和神楽団』の歴史や、舞の種類などを学び、動画で舞台の様子を視聴。「（衣装の）重さは」と聞く９歳の男の子を少し持ち上げ、「重いね。僕の倍くらいかな」という答えに会場が和みます。
学んだ後は、神楽の体験と大竹和紙を使用した御幣作りに分かれます。体験では、衣装を試着したり、太鼓や扇子などの道具を使ったりして神楽に触れました。他にもヨーヨーなどの遊び、プチケーキやコーヒーなどのマルシェやバザーもありました。
廿日市市大野から来た佐藤佑大くん（６歳）は、神楽が大好き。１年前に舞台を見てとりこになり、毎日動画を見てセリフを覚えたり、舞をまねたりしているそうです。扇子や刀を使って舞う佑大くんに、来場者も興味津々。「楽しかった。もう（舞も）できる」と笑う佑大くんは、「見に来てください」と将来観客の前で舞えることを楽しみにしていました。

８月27日　宮島水族館からやって来たペンギンのラムネちゃん、さやかちゃんの２羽と会おうと、182人が玖波公民館に訪れました。
最初の30分はペンギンの習性や種類などについて学び、卵や羽根に触ったりしました。学習の後はいよいよ触れ合いタイム。２羽を囲む柵の前に長蛇の列が続き、今か今かと順番を待つ来場者たち。
ペンギンと会うのはこれが２回目という田中優愛ちゃん（大竹小１）は「かわいい」とラムネちゃんをなで、「前触ったときは水にぬれてたからペトペトだったけど、今回はフワフワだった。でも下から上になでたらチクチクしてた」。にこにこ顔の優愛ちゃんは、「また会いたい」と３回目が楽しみのようでした。

８月26日　表現師、女優、ダンサーなどとして主にニューヨークで活躍する『大好き大竹応援大使』三宅由利子さん。玖波公民館でのトークとパフォーマンスに94人が来場。
「コロナやけがなどうまくいかない時期が続いても乗り越えられたのは、家族や友達との電話だった」と苦しいとき支えてくれた周囲の人への感謝を表す三宅さんです。力強い歌声と踊りには、会場が拍手で埋め尽くされました。
けがのときリハビリを担当してくれた畠中美帆さんは、娘の七海さん（大竹中２）と観覧。三宅さんは「動いている姿を見せることができてよかった。おかあさんにはめちゃくちゃお世話になったんだよ」と七海さんに声をかけます。「トークは経験されたからこそ説得力があった。ダンスは表現力がすごい」と七海さんは感嘆の声。「ご縁があって来させてもらった。引き込まれる内容でした」という美帆さん。久しぶりの再会を喜んでいたようです。